

Reccomend  
Movie 007



定年を迎える精神科医のジャックは、NY で自殺を図ろうとするドンファンと名乗る青年(ジョニー・デップ)を担当する事となる。彼は仮面とマントと剣を持ち不思議な愛の遍歴を語り始めた。物語の中で、青年は多くの女性と恋に落ちるなか、1502 人目にして最愛のドンナ・アナが去ってしまった事で生きる希望を失っていた。ジャックは、そうしたドンファンと名乗る青年の物語に次第に引き込まれていき、いつしか冷めてしまっていた妻への愛が蘇っていく事に気づく。薬物治療を強く進める院長に対して、担当医のジャックは断固としてカウンセリングによる治療を進めるが、青年の素性を探る中、青年が話す物語は妄想であった…かのように思われた。心温まる良作であり「治療」とは誰の何のためのものなのか、生きていく上で必要なものは何なのを考えさせられる映画でもある。

執筆者：CEO 神谷 牧人

Editor's  
Note

今月号から編集担当になりました宮里です。新年度に入り、早いものであつという間に5月。沖縄は梅雨の季節で、僕自身は苦手な季節。早く、青空！太陽！海！という沖縄らしい夏の風景が待ち遠しいです。アソシアジャーナルでは、これからも沖縄のこと、兵庫のことを皆様楽しく伝えられるように頑張ります！

執筆者：広報 GM 宮里 政士

先日、沖縄アリーナで感覚過敏のある方でも、気軽にスポーツ観戦を楽しめることを目的として設置された「センサリールーム」が話題となりました。センサリールームとは、音や光の刺激を抑えるために室内スピーカーの音量を調整することや、ブラインドで光を遮るなど配慮された空間のことを言います。沖縄アリーナで定期的開催されているプロバスケットボールの試合では、レーザーショーや背景音楽(BGM)など試合を盛り上げるために華やかな演出がなされます。しかし、感覚過敏のある方はその光で頭痛や目眩を起こしたり、盛り上がりの声援に不安を感じたりすることがあります。センサリールームで実際にスポーツを観戦した方々は、「駄目だったら途中で帰ろうと思

っていた」「今まで縁がないと思っていたスポーツ観戦ができて楽しかった」と好印象を抱いていたようです。感覚過敏のある方が感じている不安やストレスに対して、企業や団体がこのような配慮を行うことは、現代の世の中を過ごしていくなかで必要なことだと感じます。多様性、包摂性などを含めた取り組みは沖縄県内外でも多く行われており、地域の広報誌やネットなどでも紹介されているので興味があればぜひ検索してみてください。今後もこのような配慮が広がり、障がいを持つ方に限らず子育て中の家庭や高齢者など、あらゆる方々が快適に安心して参加できる空間が増えることを期待しています。

誰もが安心して参加できる～エンターテイメントの場から広がる人に優しい空間作り～

先月、4月2日の「世界自閉症啓発デー」に合わせ、ブルーライトアップやポスター・パネルの展示など、沖縄県内でもたくさんの取り組みが行われました。

当銘 友一  
所属：ソーシャルトレーニング沖縄

Associa Staff

平成30年に入社し、とても早く感じますが今年で6年目となります。入社1年目は放デイ、その後グループホームの担当を経て現在はB型にてお仕事をさせてもらっています。アソシアを利用する皆さまと関わり、支援する際に心がけているのが「どうやったら今よりも幸せになれるか」それぞれ様々な悩みや課題がある中で、どの部分を



クリアできればより幸せに近づけるのか。少しでもそのお手伝いできたらなと日々考えております。そんな私にとっての一番の幸せは睡眠です。暇さえあれば半日以上、たまに15時間ほど眠ってしまいます。起きたら夕日が綺麗。ということもしばしばあります。そのため生活リズムが乱れやすいのが難点で、休み明けの出勤はいつも起き上がるのに苦労しております。

TAKE  
FREE

# ASSOCIA JOURNAL

May  
2023



## 社会・人との繋がりから未来の可能性を広げるアソシアホイスコーレ（沖縄）

放課後等デイサービスの対象は主に通信 / 定時制高校在籍の方。3年かけて自分の将来像を作っていきます！

去った3月、今年度もアソシアホイスコーレ（沖縄）から高校生17名が卒業していきました。この6年間で64名の方が社会に旅立っています。先日、卒業生が顔を出しに来ており、その時に他の子達の状況を聞くこと

ができました。皆さん就労移行で就職に向けて励んでいたりと、大学や専門学校生活を謳歌していたり、就職をしていたり…何かしらの形で社会と繋がっているということを知って嬉しい気持ちが湧き上がってきます。

アソシアホイスコーレ（沖縄）では生活訓練だけでなく高校生を対象とした放課後等デイサービスも運営しています。全国的に放課後等デイサービスの数は多いですが、利用されている児童のほとんどが小学生です。その小学生が年齢を重ね、高校年代に入ると年齢が離れた小学生とは興味関心の対象であったりニーズも変化していくのでなかなか同じ様にはいきません。

近年は通信制高校の需要が高まっている現状もあります。平成元年と令和元年の高校生



数を比較して見ると全日制（平成元年 550万人、令和元年 310万人）が減少傾向にあることに対し、通信制（平成元年 16万人、令和元年 20万人）と上昇傾向にあります。エリクソンの発達段階論でいうと高校年代（青年期）こそ社会との繋がりの中から様々な刺激を受けていく必要がありますが、高校年代で家庭以外の社会が少ないことも現状としてあります。こう言った背景もあり高校生を対象とした放課後等デイサービスを行っております。

アソシアホイスコーレ（沖縄）では、まずは“安心して通う”というところからスタートしていきます。安心して横の繋がりも作っていく必要があるため「アナログゲーム」や「スポーツ」など比較的言語を使わなくても過ごせるプログラムを行っています。次の段階が“体験 / 経験”です。週1回は外に出るプログラムを用意し、「自主企画」という学生同士で企画するプログラムなどがあります。最後の段階が“決める”になります。これは卒業後の進路を決めることです。

ここまで色々と綴りましたが…あれこれ根拠は語っても結局「楽しい」「通いたい」と思わないと皆さん来ません。なので今後も「楽しい！」「通いたい！」と思える様な場作りを今後も行っていこうと思います。

執筆者：ホイスコーレ沖縄 安里 強平



## 現役計画相談員に聞く！相談員の仕事の魅力とやりがい、真似したい自由な働き方！

計画相談員の仕事はとても大変そうと言われるが、現役相談員は実際どう思っているのか？語られるのは、相談員ならではの自由な働き方と実現するための裏技♪



計画相談員の業務を簡単に教えてください  
- 渡部：福祉サービス等をご希望の方の相談を受け、様々なサービスや制度をご本人とご家族へつなげる仕事です。ご本人のニーズを受け取り、サービスを組み立て、計画書を作成します。つなげることが主な仕事になるため『橋渡し』という言葉がしっくりきますね。

どのような所にやりがいを感じますか？  
- 渡部：通所事業所との比較でお話すると、1つのサービスや制度・場所ではなく、枠を飛び越えて様々な人たちと繋がることが出来るのが楽しく、やりがいにも繋がっています。また、ご本人とご家族、関係機関など様々な人々の価値観に触れることが出来るのも醍醐味だと思います。

アソシアでは、どのような働き方をしていますか？  
- 宮國：アソシアの計画相談は、自由な部分が多いです。例えば、担当利用者のモニタリング日や面談時間を組む方法は相談員個人に委ねられており、自由に組むことが出来ますし、面談の場所や時間によって出勤時間も臨機応変に変更出来ます。面談が続く場合どうしても気分転換したくなる時がありますが、移動中の車で音楽を聞きながらリフレッシュした

り、面談する場所の近くでオシャレなカフェを見つけておいて、面談後に寄ってみたり。実は、事前に行きたいカフェを探しておくことが楽しみになっています（笑）。

働き方が自由ですが、個人で行動すると仕事で困った時などは不安になりませんか？  
- 名嘉：定期的に相談員が集まる時間を設けていて、そこで困っていることなどを共有し、他の相談員からアドバイスをもらえます。個々が自立していながらも、しっかりとチームを意識している部分もありますね。

最後に、皆さんはどのような相談員を目指していますか？  
相談員の仕事は、支援の中心にいてはではなく『縁の下の力持ち』。人が好きで興味があり、常に謙虚に。ご本人が輝くことを心から喜べる相談員になりたいと思います。

\*アソシア独自の給与規定のご紹介  
アソシアの計画相談は、歩合制を選択することが出来ます。基本給に沿った件数設定があり、それを超えた分によって給与の変動があります。自由な働き方で件数をこなしたい方、ぜひアソシアで働きましょう！応募はホームページより。

## Column

福祉の仕事をしていると「すごいね」とか言われるけど、そんな大層なことではない。きっかけだってちっぽけだったりする。

アソシアに入職して2年。僕は、中学の時に不登校の経験があり、20年後このような仕事に就いているとは夢にも思いませんでした。当時、学校に行けないことはダメなことという認識を自分が一番感じており、生きること自体が辛い日々でした。その中で、僕の救いだったのは、THE BULE HEARTSの『TRAIN-TRAIN』という曲でした。まっすぐな歌詞で、情熱のこもった歌声に共感し、泣きながら聴いていたのを今でも思い出します。2番の「世界中に定められたどんな記念日なんかより、あなたが生きてる今日はどんなに素晴らしいだろう」という歌詞があり、自分に対してはそう思えないが、人に対しては伝えられると思うようになりました。

そうして、周りが見えるようになった僕は、色んな人に心配され、迷惑をかけ、気にしてもらっていたことに気づき、その人達が生きるのにしんどくなった時に支えられるようになりたいと、対人援助職を目指すようになりました。メンタルの弱い自分が対人援助職をしていていいのかと悩みながら、少しでも知識をつけようと勉強会等に足繁く通うことで、人と繋がり、アソシアに繋がりました。人生どうなるかわかりませんね。すごいことができるわけではないけど、人生の転機になるきっかけが作れる事業所を作っていきたいです。

執筆者：ジョブ川西 政野 信基



アソシアを知ったきっかけは、高校卒業を目指しながらサポートをしてくれる所があると役所の担当の方に勧められたことです。初めてアソシアに来たときの印象は、スタッフと学生が普段の雑談の中で冗談を言い合っている様子を見て、年齢的に上下関係はあるけど親しみやすさがあるのかなと感じました。

1年間通ってみて、自分が分からないことがあるときにスタッフから気にかけて話しかけてくれる温かみや、これまで初めての経験に対して緊張や不安が強かったですが、日々の活動を通して今は挑戦することに楽しさを持つようになりました。卒業後の進路のことはまだ想像できていませんが、これからもアソシアで新しいことに挑戦し、将来を考えていく材料を見つけられるように頑張っていこうと思っています。

協力：ホイスコーレ沖縄 利用・Pさん（16歳）